

花川病院に入院されたことのある患者さんおよびそのご家族の方へ

当院では、下記の臨床研究を行っております。本研究の対象者に該当する方で、研究のためにご自身のデータが使用されることを望まれない場合やご不明な点がございましたら、お手数ですが末尾の担当者までお知らせください。

【研究課題】 大腿骨近位部骨折の退院時歩行に必要な歩行補助具別の身体機能

【研究機関名及び自機関の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 医療法人 喬成会 花川病院

研究責任者 丸谷暁子・リハビリテーション部理学療法科・主任

【研究期間】

承認日～2026年3月31日（予定）

【対象となる方】

研究対象者は 2022年6月1日から2026年3月31日の間に、花川病院に入院された方です。

【研究目的・意義】

近年、超高齢社会に伴い大腿骨近位部骨折は増加しており、2035年には28万件に達すると報告されています。大腿骨近位部骨折を受傷すると歩行能力が低下することが多く、リハビリテーションを通じての歩行能力の再建は重要です。先行研究にて退院時に歩行可能であることが、当院退院後の生活にも重要であることが示唆され、退院時にできるだけ身体能力の底上げを図ることが重要であります。一方で、先行報告では、術後の歩行可否にかかわる報告は多くあるが、使用する歩行補助具別の検討は不十分です。

本研究にて当院のような高齢の患者層においても適切な歩行補助具が選択され、院内の生活で歩行する機会がより増えることで、退院時の歩行能力・身体予備能力の底上げがなされ、さらに幅広い年代で退院後のQOLの向上が期待できると考えられる。

【研究の方法】

対象は2023年1月から2026年3月31日までに当院に入院した大腿骨近位部骨折受傷の受傷前歩行可能であった者でデータ欠損が無い者とします。BBS下位項目に加え筋力・体組成の因子を検討に加え退院時の歩行車・杖・独歩別の身体機能を考察したいと考えています。単変量解析で有意差のあった項目を用いて多重ロジスティック回帰分析を行ないます。その後、多重ロジスティック回帰分析において最も関連の高い因子を特定した後、その因子に対してreceiver operating characteristic (ROC) 曲線・曲線下面積 (area under the curve ; AUC) を算出し、因子の判別能力を評価します。必要に応じて決定木分析を行い、クリティカルな下位項目を検討し（先行報告で360°回転、Functional Reach、タンデム肢位）、先行報告と比較します。本研究は花川病院の倫理審査委員会の承認に基づき行われます。

【個人情報の保護】

本研究に関わって収集される情報は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。取得した情報は、解析する前にあなたの氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、どなたのものか分からないように匿名化処理をします。

本研究のためにご自分（あるいはご家族）のデータを使用してほしくない場合は、下記の問い合わせ先に、末尾に記載されております掲載日から60日以内にご連絡ください。研究に参加いただけない場合でも、将来にわたって不利益が生じることはありません。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究の成果は、あなたの氏名等の個人情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌などで公表します。

本研究は、花川病院倫理委員会の承認を受け、花川病院病院長の許可を受けて実施するものです。本研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

【連絡・お問い合わせ先】

研究責任者：丸谷 暁子

連絡担当者：丸谷 暁子

〒061-3207 石狩市花川南7条5丁目2

医療法人 喬成会 花川病院

電話番号：0133-73-5311

Email: reha@kyouseikai.jp

Email: reha@kyouseikai.jp